

2023年5月20日(土)

老球の細道731号

名コーチとの出会い「世界のコーチ、トスティン・ロイブル」⑬

会津バスケットボール協会 室井 富仁

久しぶりの出会い記である。大宮北高校との遠征試合を繰り返しながら、会津でのトスティンクリニック開催、大宮でのトスティンクリニックに参加したりして彼との親交を深めていった〈この時坂下高校への通勤時間を利用してラジオ英会話講座を学習したが敗北〉。

2002年になった時にトスティン氏の故郷ドイツ・ケムニッツ市で「日本人コーチのためのコーチング・エデュケーション・ツアー」を実施することになった。私にも参加しないかと連絡が来た。もちろん参加承諾を迷わず即答した。

ところが、その後、日本体育協会(現日本スポーツ協会)の公認コーチ後期講習会と日程がバッティングすることになった。公認コーチ講習会の方は認定試験もあるのでキャンセルすることはできなかつた。トスティン氏から誘っていただいたので好意を無にすることもできず急遽私の長男にピンチヒッターで参加してもらった。

長男は当時、会津若松市内で会社員をしながら地元クラブチームで選手としてプレイしていた。私の代理参加に嫌な顔しないで快く引き受けてくれた。全国から集まった見知らぬ人たちがばかりの中に会津から只一人参加した。初めての海外旅行でもあり、よく決心したものであると親馬鹿であるが感心した。

ドイツから帰って来た長男は、トスティン氏や同行した全国の情熱ある指導者たちに影響されて、自分の将来の進路を変更するため会社を退職した。そしてスポーツトレーナーの道を目指してトレーナー養成の専門学校へ入学した。そこで3年間学び直して、現在では自分の夢を実現させて市内のトレーニングジムでパーソナルトレーナー兼マネージャーを務めている。長男が子どもの頃はよく長男と次男を両腕にぶら下げて家族に筋力を誇っていたが、今では私の身体の2倍もある大ききの長男の両腕に私と孫息子がぶら下がるくらいになってしまった。あっという間の青春、あっという間の高齢、あっという間の人生、無常迅速である。

話は息子のことから私のところへトランジション。2年後の2004年によくドイツ・コーチング・ツアーに参加するチャンスが来た。会津地区のコーチ仲間トスティン氏とも交流のある星博之先生(現若松商業高校コーチ、県指導者育成委員会委員長)と佐藤公希氏(現ミニバスコーチ、福島ファイアーズ・スクールコーチ)にも声をかけて一緒に参加した。この二人とは2回目のドイツ・チェコ・コーチツアー、3回目のスペイン・コーチツアーでも同行することになる。

2004年3月26日(金)20時15分ドイツ・ケムニッツに向けて(ドレスデン経由)成田空港を出発した。添乗員はいなくて参加者5名のみの現地集合である。通訳がいなくて不安であったが、静岡から参加した三浦先生(現静岡県協会専務理事)が体育教員でありながら英語ペラペラだったので安心した。私はヘラヘラだったが通用しなかつた。〈まだ続く〉